

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 136号

2015/5/4 発行
株式会社 立花商店
坂元 麻美

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願ひ致します。

1、市況の動き

① 最高 5月 LDN 市場 £ 1,992 / 5月 NY 市場 \$ 2,948 (4/30,4/29) 先週比 LDN **+27** / NY **+59**
② 最低 : 5月 LDN 市場 £ 1,966 / 5月 NY 市場 \$ 2,877 (4/30,5/1) 先週比 LDN **+66** / NY **+105**
週内価格差額 (①-②) : LDN 市場 £ 26 (傾向 ↑) / NY 市場 \$ 71 (傾向 ↑)
週内建玉推移 : LDN 市場 272,096 枚 (4/24 終了時) ⇒ 280,289 枚 (4/30 終了時) **+8,193 枚**
NY 市場 187,445 枚 (4/24 終了時) ⇒ 195,075 枚 (4/30 終了時) **+7,630 枚**

	2015/4/27(月)		2015/4/28(火)		2015/4/29(水)		2015/4/30(木)		2015/5/1(金)	
	LD	NY	LD	NY	LD	NY	LD	NY	LD	NY
5-May	1980	2918	1971	2924	1966	2948	1992	2943	1974	2877
5-Jul	1997	2922	1989	2924	1987	2941	2005	2943	1987	2877
5-Sep	1985	2908	1978	2915	1974	2928	1991	2929	1974	2869

月曜日、ロンドン市場は一時6か月ぶりの高値をつけ、3日連続の上昇となった。

NYでもテクニカル買いが入り、心理的高値である2900ドルを抜けて高値圏で取引を終了した。

火曜日、ロンドン市場はテクニカル買いが入り、開始直後は上昇し一時は心理的高値の

2000ポンドを超えたが、終わりにかけて売りが加速し、最後の5分で10ポンド以上上げて取引を終えた。

木曜日、ロンドン市場は反発、前日比1.3%上昇し終了。

月初となった金曜日、両市場とも大幅下落。NYでは約2.2%、ロンドンでは約1%下落した。原因の一つとして、ドルが対ポンドで2.25セント上昇したことが挙げられるだろう。

2、スリランカ：インドで貿易規制が厳しく、他市場へ目を向け始める(4/25)

工業的に使用するコンパウンドチョコレートに重きを置くスリランカのチョコレート輸出業者は、インドの次に中東やバングラディッシュへの販売に力を入れている。これまではインドが主要な市場となっていたが、非関税障壁による自由貿易の妨害により、新たな市場へと切り込んでいく。

板状のチョコレートやチョコレートバーとして消費されるコンパウンドチョコレートは、カカオ、植物油、人工甘味料などから構成されており、純粋なチョコレートと比較し安価であるとして幅広く利用されている。こうしたインドにおける貿易規制の問題で、スリランカのカカオ・チョコレート工場が約1年止まったこともあった。そしてようやく6か月前には中東やバングラディッシュからの発注を受けて工場を再稼働させることが出来た。

スリランカの Anods Cocoa 社はインド市場のみをターゲットにするために、インド人のコンサルタントを雇い、その指示に従って工場を設立した。同企業の代表は「その目的はインドに商品を販売するためだ。」と *Business Times* に告げた。また生産管理の担当者は「我々は2013年に工場を稼働開始し、カカオペースト、パウダーや他のバルク品をインドに輸出してきた。FTA の締結により関税は0%で輸出することができる。

インドの Cares India 社からも、2013年10月～2014年3月にかけて48万7000USDに相当する168トンのブロックチョコレートの受注を受けた。このままのペースでいくと、Anods Cocoa 社は Cares India 社に対して28トン/月にチョコレートを供給する必要があった。

しかし Anods Cocoa 社がインドに輸出を開始して間もなく、Cares India 社から「インドの食品安全規制と輸入規制により、契約しているコンパウンドチョコレートの出荷を送らせてほしい。」との連絡を受けた。

インドに販売予定であった初めの28トンのコンパウンドチョコレートは、スリランカの Cochin に運ばれた後、インド政府当局からの食品申請許可が下りないとの理由からインドの Chennai で積み置かれたままになってしまった。他の機関からの輸入許可は下りているものの、食品の安全性が認められるまでは輸入許可が下りなくなってしまった。こうして Anods Cocoa 社はインドの新税法や輸入規制の強化により、多大な損害を強いられることになった。

FTA のもとでは輸入が認められているスリランカ製の製品であっても、インドの食品規制当局はスリランカがインド市場向けに生産したチョコレートやチョコレート関連製品の輸入を完全に禁止せざるを得ない状況になってしまった。

スリランカ製品をインドへ輸出する際に妨げとなっている規制は、厳格な食品検査、食品の分類コードの振り分け方、特別なラベル作成などといった点で、これが輸出国が強いられている非関税障壁である。

Anods Cocoa 社の担当者は「インド政府当局は、強制的な輸入手続きに加え、技術的な要求や難しい銀行システムなどを強いている。それ以外にも関税以外の税金を求められている。」と述べている。

また「インドへ輸出するたびに、公安の衛生当局による認証を受ける必要があり、それに1か月以上を要する。こうした深刻なほどに厳しい輸出規制が増えている。」と続けた。

しかしながら、逆にインドからスリランカへ食品を輸出する際は、FTAのもと食品検査などの手順無しに簡単に出荷できる。Anods Cocoa社の他の担当は「彼らはすでに彼らのチョコレートやチップチョコなどをインドからスリランカに輸出し始めている。」と述べた。

～チョコレートへの情熱～

それでもAnods Cocoa社はチョコレートの品質や、顧客が理想のチョコレートを作る手助けをするために改良していくという情熱によって導かれているという。

同社の担当者は「ココアバター入りのチョコレートや、コンパウンドチョコレート、顧客の希望に応じたカカオの配合率など、我々は顧客のニーズに合わせる努力をしていく。」と述べた。

またシンガポール企業から専門家を呼び寄せて構成した研究開発グループを置いた。

Anods Cocoa社の目下の目標は、彼らのチョコレートブランドを確立し、より多くの人々に食べてもらうことである。中東やバングラディッシュのみならず彼らのチョコレートのシェアは徐々に拡大している。

3、コロンビア：サンタンデールの小規模農家、欧州向けの輸出の認証取得(4/28)

コロンビア政府とサンタンデール州とSwiss contactの3社間での合意の中で、Carmen de Chucuri地区でファインカカオを栽培する約101もの農家は、彼らのカカオを欧州へ輸出する認証を取得した。

またこのプロジェクトにより53万8336USDもの支援金を得て、サンタンデールの農家のトレーニングのために600件もの小規模農家へと分けられた。

彼らは224トンのファインカカオを出荷する予定で、その他にも追加で640トンの出荷を見越して在庫している。その主な出荷先は欧州である。政府、州、民間組織主導のプロジェクトにより、平均で592kg/ヘクタールの生産量を達成し、国全体で48%も収穫量を伸ばした。

■先物市場のテクニカル分析

先週は、テクニカル分析の概念についての説明を致しました。

今回はまず【テクニカル分析とファンダメンタル予測の違い】について、確認したいと思います。

テクニカル分析は市場の動きの研究に専念するのに対し、ファンダメンタル分析は価格を上下させたり、あるいは同じレベルにとどめさせたりする原因となる、需要と供給に焦点をあてています。ファンダメンタル手法は、商品の本来的な価値を見出すべく、価格に影響を与える主要な要素を全て吟味します。本来的な価値とは、商品の需要と供給に基づいて、ファンダメンタルが示す価値である。もし、この本来的な価値が現在の市場価格を下回っていれば、商品は安く見られており、買われてしかるべきである。

市場予測に対する手法としては、テクニカル分析もファンダメンタル分析も価格が動きそうな方向を見極めようとするものであり、単に異なった方向から同じ問題にアプローチしているだけである。ファンダメンタリスト（ファンダメンタル手法を好む人）は市場の動きの原因を研究し、テクニシャン（テクニカル分析を好む人）はその影響を研究する。テクニシャンにとって、影響こそ知りたい、あるいは知る必要があるものであ

て、その理由や原因は知る必要のないものである。一方、ファンダメンタリストはその理由や原因を知らなければなりません。

次に、【分析とタイミングについて】です。テクニカル分析において重要なポイントの1つは、意志決定の過程を2つの段階、分析とタイミングに分けることで、より明らかになります。先物市場においては“レバレッジ（てこの作用）”が高い為、トレーディングの成功にはタイミングが得に重要。市場のトレンドをつかみながら実際には損失を被ってしまうことは極めてよく起こります。先物市場において要求される証拠金は非常に少ないので（通常実際の取引する商品金額の10%未満）、誤った方向へ価格が僅かに動いただけでトレーダーは証拠金のすべてあるいはほとんどに相当する損失を被り、市場から撤退せざるをえないこととなります。一方で株式市場の場合であれば、もしトレーダーが市場とは逆のまちがった側についてしまったら、その株がいつかもう一度一花咲かせることを期待して、それまでは待ち続けるほかありません。ただ逆に言えばもう一度価格が回復してくるまで待ち続けることが出来るということです。

カカオ等の商品トレーダーは株式の様な長期的な視点でぜいたくな投資は出来ません。長期保有の戦略“Buy & Hold”（買って、そのまま保有する）戦略は先物の分野では通用しないからです。分析という第一段階ではテクニカルとファンダメンタルの両手法を使う事が出来ますが、タイミングの問題、すなわち具体的に市場に参入し撤退する瞬間を決定するのは、ほとんど純粋にテクニカルなもので決定します。トレーダーが、実際にマーケットで行う行動の各段階を考えると、たとえ初期段階ではファンダメンタル分析を適用したにしても、その後なんらかの時点においては、やはりテクニカルな法則を適用することが不可欠になるものと思います。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp